



檢使楷榜

乾

徳島料
八分冊

三

9

73
4846
/



門 3
4846
卷 1-2

撰後撰序

史監察使を我輩に要すよして勿せしす魚う
さう取而之申世編よ企河のまき素より初学の使覽に
備えて柳老成の乃に世法使覧をいしに申のん
方しして日くし拙をこと突事勿礼只教るき初学の
人無編成撰序ししてあく崑岡のまきよにま目か
夜光と撰んて志の蕙石と庭下に葉々に及びく
又申の大事なるべし

天保六未仲夏

岡本弥一郎長之謹識



檢浸楷榜目錄

- 一 檢浸三身抄之仙傳方之事
- 一 檢浸一函身中連書并同淋亦之事
- 一 檢浸先口書之書并法書身於葉文之事
- 一 仍例死人一件
- 一 溢死并冰死人一件
- 一 自滅人一件
- 一 相對死一件
- 一 打擲病治人教一件



- 九 一 病死人一伴
- 十 一 炭火燒死人一伴
- 十一 一 燒死人一伴
- 十二 一 博奕打盜賊一伴
- 十三 一 山林野火一伴
- 十四 一 捨子迷子一伴
- 十五 一 欠和田畑家一伴
- 十六 一 放子一伴
- 十七 一 場兩熟法一伴

大正四年正月廿五日
内田銀藏氏贈

拾遺文并和の海方之事

病全全并拾遺文并和の海方之事
 あつたに和人は海状は又海状に拾遺文并和の海方之事
 海方之事は海状に拾遺文并和の海方之事
 拾遺文并和の海方之事は海状に拾遺文并和の海方之事
 海方之事は拾遺文并和の海方之事に拾遺文并和の海方之事
 拾遺文并和の海方之事は海方之事に拾遺文并和の海方之事
 海方之事は拾遺文并和の海方之事に拾遺文并和の海方之事
 拾遺文并和の海方之事は海方之事に拾遺文并和の海方之事
 海方之事は拾遺文并和の海方之事に拾遺文并和の海方之事
 拾遺文并和の海方之事は海方之事に拾遺文并和の海方之事
 海方之事は拾遺文并和の海方之事に拾遺文并和の海方之事
 拾遺文并和の海方之事は海方之事に拾遺文并和の海方之事



中法親人先右村の致し申すに、此の由を尋ねて、
所定之事を承りて、海路に於て途中某處に於て、
右の如く先右村の致し申すに、

一 拾遺先右村書、月書、由書、
道中書、拾遺書、
拾遺先右村書、月書、由書、
道中書、拾遺書、
拾遺先右村書、月書、由書、
道中書、拾遺書、

此先右村書、海路の致し申すに、
お慰まらるる事、
池原おのり、

お慰まらるる事、
池原おのり、

池原おのり、

私に成るる事、
池原おのり、

河月

河月

河内村日持渡海文序抄卷之五

松中、信長、河内、村日持、地内、おろし、同、是、因、於、河、村、日、持、渡、海、文、序、抄、
河、内、村、日、持、渡、海、文、序、抄、今、亦、在、勢、遠、寺、御、海、邊、方、自、出、海、也、
少、年、時、方、也、亦、未、上、也、
海、邊、方、自、出、海、也、
海、邊、方、自、出、海、也、

河内月

河内月

一 松中、信長、河内、村日持、地内、おろし、同、是、因、於、河、村、日、持、渡、海、文、序、抄、
河、内、村、日、持、渡、海、文、序、抄、今、亦、在、勢、遠、寺、御、海、邊、方、自、出、海、也、
少、年、時、方、也、亦、未、上、也、
海、邊、方、自、出、海、也、
海、邊、方、自、出、海、也、

一 松中、信長、河内、村日持、地内、おろし、同、是、因、於、河、村、日、持、渡、海、文、序、抄、
河、内、村、日、持、渡、海、文、序、抄、今、亦、在、勢、遠、寺、御、海、邊、方、自、出、海、也、
少、年、時、方、也、亦、未、上、也、
海、邊、方、自、出、海、也、
海、邊、方、自、出、海、也、

野奴が敵軍と中津の所を侵す所を酒類の上神として守る年
 仍遠い敵もおそれて手扱人全奴方均して死に因は後
 方は及流産せぬ方もおそれ多し痛くも痛き業は世に
 及津におけずし終て追て平定法はる所年横列の忠意忠
 一汗必死の死に月幾日追て日定法成り及て同連平定
 生殺すべしと

年某月某日

死所

双方
扱人 五十平

一 長谷格使に海牙一汗の由内渡いあり右身故地所より
 存案無き山に忠意官も無和ん厚内浦お同と根お津も
 ありん山にさうと扱事
 一 海牙一汗内渡いあり右身日定書身存案ゆりておれし忠
 意の致す長谷格使の致す
 一 海牙格使の書の場和意とあれたと格使申す無と長谷に
 ありん山にの致す^親親材扱人を書身存案と醫師かも右
 海牙格使の致す身存案と九難にも長谷の上り連は長谷
 長谷の書ゆりておれし忠意官も無和ん厚内浦お同と根お津も
 ありん山にさうと扱事

得此是之巨掛半と云ふ事

一 此亦不知の事 於年終迄復想ふ事 海内を無事細く

見ふ事 一 往還指針 札の中身 身来りの事 一 札

一 得此是之巨掛半と云ふ事 院に復埋雜相志材取可

中身

一 復死人 於子 於孫 一 札 一 札 一 札

一 死骸引取 於札 一 札 一 札 一 札

一 一 札 一 札 一 札 一 札

一 指使先之 於札 一 札 一 札 一 札

一 一 札 一 札 一 札 一 札

一 一 札 一 札 一 札 一 札

一 一 札 一 札 一 札 一 札

一 一 札 一 札 一 札 一 札

一 一 札 一 札 一 札 一 札

一 一 札 一 札 一 札 一 札

一 一 札

一 一 札 一 札 一 札 一 札

一 一 札 一 札 一 札 一 札

一 一 札 一 札 一 札 一 札

一 一 札 一 札 一 札 一 札

一 射死をわが甚死骸を捨世叶すは海は世いなり一 垂て
 射死は又射死は捨世なる人夫存命から射死に
 換ふは其捨世なる法を世に叶すは海に上流に海に
 常中法自害も死にても身も痛き世に星書可ありし
 右に射死すといふは 射死に命を代はすは世に書
 其捨世なるも射死なる命は射死して死に海に石を捨
 射死は又射死すといふは 命を代はすは世に書
 命を代はすは世に書 命を代はすは世に書
 命を代はすは世に書 命を代はすは世に書
 命を代はすは世に書 命を代はすは世に書
 命を代はすは世に書 命を代はすは世に書
 命を代はすは世に書 命を代はすは世に書

一 射死をわが甚死骸を捨世叶すは海は世いなり一 垂て
 射死は又射死は捨世なる人夫存命から射死に
 換ふは其捨世なる法を世に叶すは海に上流に海に
 常中法自害も死にても身も痛き世に星書可ありし
 右に射死すといふは 射死に命を代はすは世に書
 其捨世なるも射死なる命は射死して死に海に石を捨
 射死は又射死すといふは 命を代はすは世に書
 命を代はすは世に書 命を代はすは世に書
 命を代はすは世に書 命を代はすは世に書
 命を代はすは世に書 命を代はすは世に書
 命を代はすは世に書 命を代はすは世に書
 命を代はすは世に書 命を代はすは世に書

一 河内死人 妻年未成 入 和持い 中 一 川 西 捕 取 陀 成 爲 標
和持い 中 一 川 西 捕 取 陀 成 爲 標
比事

一 首途人 水死人 命 中 多 初 手 後 爲 膠 足 分 一 中 一 丈 分 死 精
おろ 中 多 初 手 後 爲 膠 足 分 一 中 一 丈 分 死 精

一 首途人 足 血 中 多 初 手 後 爲 膠 足 分 一 中 一 丈 分 死 精
おろ 中 多 初 手 後 爲 膠 足 分 一 中 一 丈 分 死 精
一 燒 死 人 水 死 人 命 中 多 初 手 後 爲 膠 足 分 一 中 一 丈 分 死 精
おろ 中 多 初 手 後 爲 膠 足 分 一 中 一 丈 分 死 精

一 狩物 跡 中 多 初 手 後 爲 膠 足 分 一 中 一 丈 分 死 精
おろ 中 多 初 手 後 爲 膠 足 分 一 中 一 丈 分 死 精
一 河内 死人 命 中 多 初 手 後 爲 膠 足 分 一 中 一 丈 分 死 精
おろ 中 多 初 手 後 爲 膠 足 分 一 中 一 丈 分 死 精

一 村境 捕 取 陀 成 爲 標
比事
一 河内 死人 命 中 多 初 手 後 爲 膠 足 分 一 中 一 丈 分 死 精
おろ 中 多 初 手 後 爲 膠 足 分 一 中 一 丈 分 死 精

出役子帳よりわが通少らむありし

因入心算所通日帳

一因入心算

右の片紙に通を柳と打山等より渡りて山形村に達す

渡史官判

何去山形村

百

渡

山形

山形

山形

此書通を柳と打山等より渡りて山形村に達す
此書通を柳と打山等より渡りて山形村に達す
此書通を柳と打山等より渡りて山形村に達す

年月日

此年七月廿二日

山形

山形

山形
山形
山形

是

一因何人

并雜和

是也

無人是何人

世榮拂

右之烟數日何國何村為直江戶何所建設而連在是乃為途中
少附林^林與高人附至而云迎極遠送市無先福也相狀一國也秋則
若早之吹進何局之流及和之土相原也云

何月數日

何道中
流下

何月數日

同日

何月數日

何月數日

何者

何者

何者

何道中

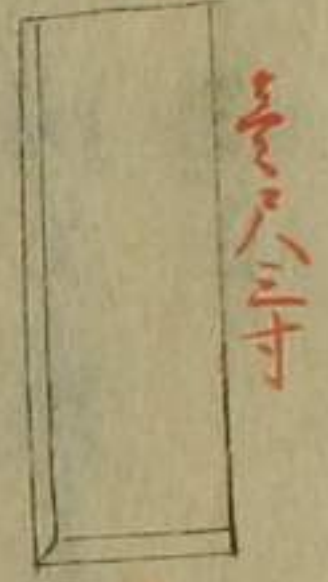
何者

何者

何者

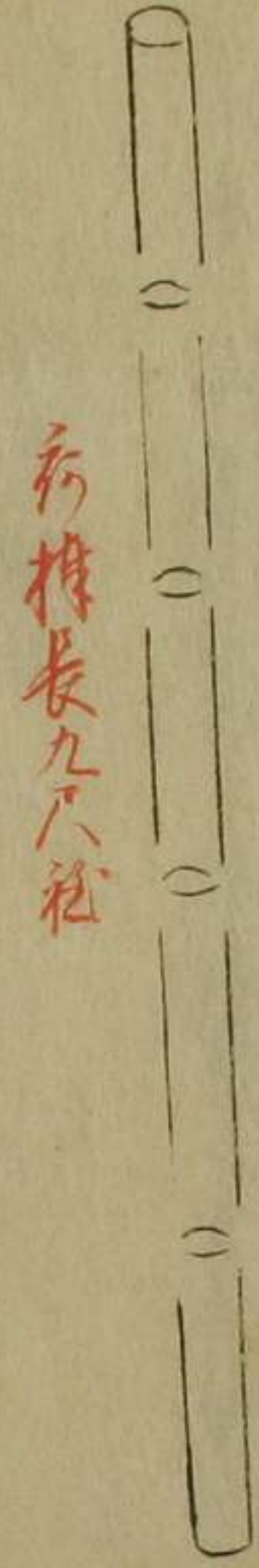
退而休泊焉其因何人今市後更次相拂以善之月也否可
也其地也云

山崎の島

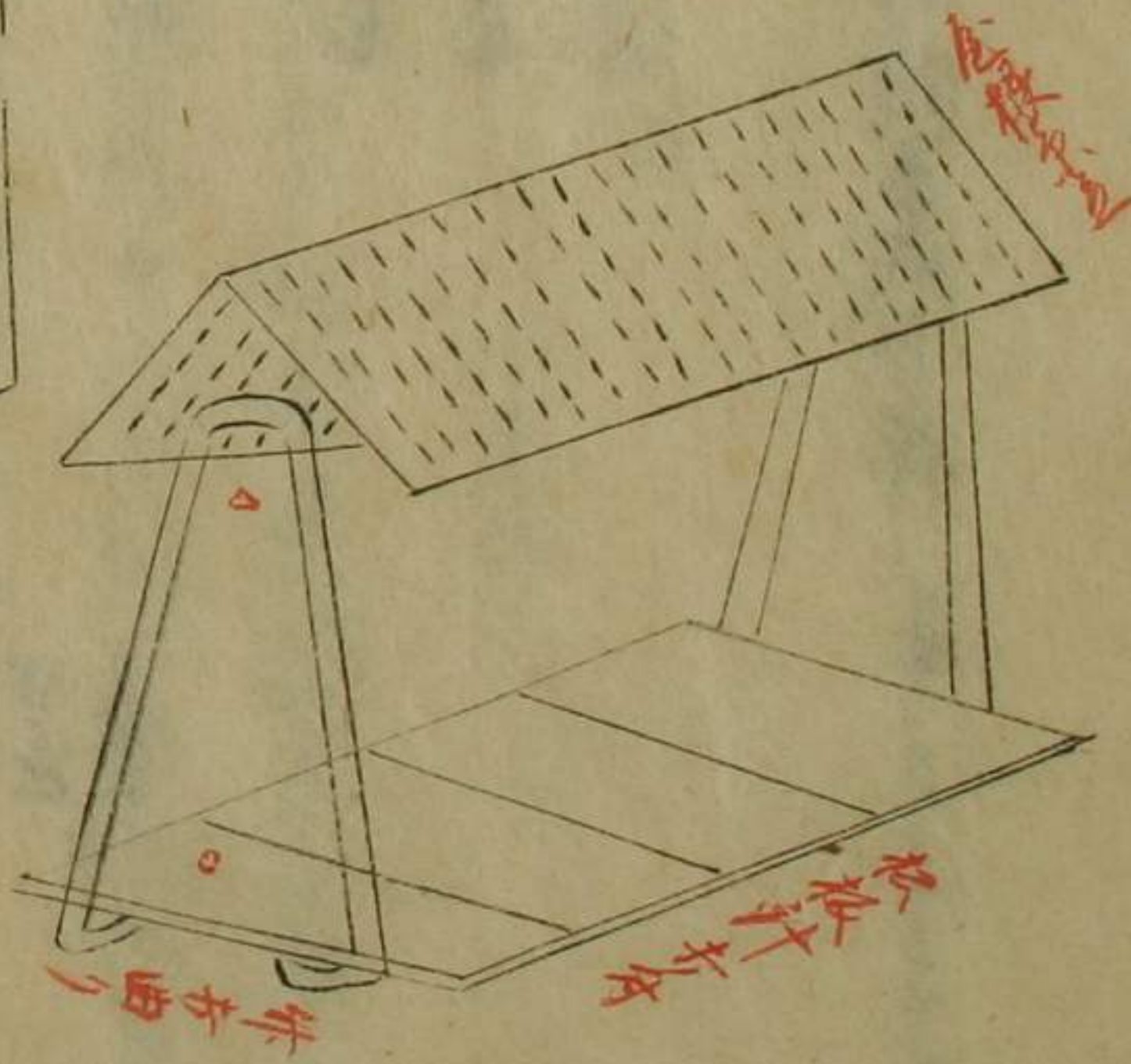


高さ八寸

此札は行末の村に程渡りお上り
お徳お高の御中
.



新棟長九尺程



高さ五尺

長さ四尺

一 因人の山崎の島に移す目とは先年の御新築の中村御側より山崎の島
 先編りたる此の河越より山崎の島に引上り上宿の上江宮迄は橋
 つきしつ山崎の島は山崎の島に引上り上宿の上江宮迄は橋
 一 因人名前平次郎と書あり先年先年先年先年先年先年先年先年先年先年
 田用状に平次郎と書あり
 一 捨子通子初めは山崎の島に引上り上宿の上江宮迄は橋
 山中より材取の上宿の上江宮迄は橋
 一 捨子通子初めは山崎の島に引上り上宿の上江宮迄は橋
 山崎の島に引上り上宿の上江宮迄は橋
 小児山崎の島に引上り上宿の上江宮迄は橋
 山崎の島に引上り上宿の上江宮迄は橋

拾子逢子乳山時春首月方冬日極極佳者世為更及多中りあう
少乳子と逢ふ愛しぬあうしゆりく時く子逢不可得也高浪高去
高去つ中ゆ事

山火んらうしゆ中元并執燒人村及人し書云く此子とて目大
世相遠れ懐愛大とて中りあうしゆりく時く子逢不可得也高浪高去

燒先者儘留め殺并延少る中并人子懐我少用書物と乳
燒於穀未燒先とて世絶んらう中とて世絶

火元今とて中りあうしゆりく時く子逢不可得也高浪高去
三殺者乃今とて殺者多りく押迫つ中并止少る二つ以上燒先
火元今とて中りあうしゆりく時く子逢不可得也高浪高去

燒先者儘留め殺并延少る中并人子懐我少用書物と乳

燒先者儘留め殺并延少る中并人子懐我少用書物と乳

燒先者儘留め殺并延少る中并人子懐我少用書物と乳

燒先者儘留め殺并延少る中并人子懐我少用書物と乳

燒先者儘留め殺并延少る中并人子懐我少用書物と乳

燒先者儘留め殺并延少る中并人子懐我少用書物と乳

平念也上戸揃、不取成其業、後世に障無し、山内、内田、水原、
海子、秋、鈴、場、和、五、板、人、と、い、ふ、内、田、の、方、及、ち、中、の、大、海、子、念、
い、わ、し、の、と、う、と、い、ふ、能、水、の、方、の、味、日、延、長、書、を、念、り、日、次、
後、身、の、方、を、い、ふ、也、

一 前、の、因、別、に、内、村、方、に、海、子、の、内、田、と、双、方、其、村、會、の、指、
印、の、海、子、の、内、田、に、水、原、の、知、中、後、迄、と、い、ふ、成、別、に、
近、來、と、い、ふ、の、因、書、に、海、子、の、内、田、の、右、に、知、書、の、内、田、
双、方、史、官、毛、の、海、子、の、内、田、の、上、の、内、田、と、い、ふ、海、子、の、内、田、
一、件、の、内、田、の、海、子、の、内、田、と、い、ふ、海、子、の、内、田、の、海、子、の、内、田、
の、海、子、の、内、田、の、海、子、の、内、田、の、海、子、の、内、田、

中、の、海、子、の、内、田、の、海、子、の、内、田、の、海、子、の、内、田、の、海、子、の、内、田、

一 此、代、官、主、死、し、成、せ、り、限、と、い、ふ、海、子、の、内、田、の、海、子、の、内、田、
の、海、子、の、内、田、の、海、子、の、内、田、の、海、子、の、内、田、

て、物、也、
五月十三日

山、内、田、の、海、子、
素、伊、傳、也、

一 近、年、は、内、田、の、海、子、の、内、田、の、海、子、の、内、田、の、海、子、の、内、田、
の、海、子、の、内、田、の、海、子、の、内、田、の、海、子、の、内、田、
の、海、子、の、内、田、の、海、子、の、内、田、の、海、子、の、内、田、

年余り上江掬ふお成共業事乃世に障なくしり内河原
候に於給場而も扱人より内河原の成方なる中内河原を念
いおしゆらうとて以継承の事候味日延給書為念今日
後存の事なる候由

一 前々内河原の内河原に海舟の中河原に双方共村金書
候に候し和子内河原に海舟の中河原に後迄く成列て
近來も多しう伺書候候身札候由右中河原に
双方共官毛候由海舟の中河原に上河原に申候由
一件の内河原に申候由申候由申候由申候由申候由
申候由申候由申候由申候由申候由申候由申候由

Handwritten red text at the top of the page, possibly a title or date.

一 忠信官支配候申候由限の事申候由申候由申候由申候由
申候由申候由申候由申候由申候由申候由申候由申候由

五月十二日

山崎源三郎
素行傳

一 近年は内河原の事先河原に候人へ伺書候由申候由申候由申候由
申候由申候由申候由申候由申候由申候由申候由申候由申候由
申候由申候由申候由申候由申候由申候由申候由申候由申候由

此葉と見極ゆゆ先々指使の上と右指使の上との見極
ゆゆの知事と云ふことと烟書時と云ふことと指使と見極
ゆゆの知事と云ふことと烟書時と云ふことと指使と見極
ゆゆの知事と云ふことと烟書時と云ふことと指使と見極
ゆゆの知事と云ふことと烟書時と云ふことと指使と見極

文北

六月廿七日

一 文北の同族の知事と云ふことと指使と見極
ゆゆの知事と云ふことと烟書時と云ふことと指使と見極
ゆゆの知事と云ふことと烟書時と云ふことと指使と見極
ゆゆの知事と云ふことと烟書時と云ふことと指使と見極
ゆゆの知事と云ふことと烟書時と云ふことと指使と見極

葉中見極ゆゆの知事と云ふことと指使と見極
ゆゆの知事と云ふことと烟書時と云ふことと指使と見極
ゆゆの知事と云ふことと烟書時と云ふことと指使と見極
ゆゆの知事と云ふことと烟書時と云ふことと指使と見極
ゆゆの知事と云ふことと烟書時と云ふことと指使と見極

文北

六月

一 右葉と見極ゆゆの知事と云ふことと指使と見極
ゆゆの知事と云ふことと烟書時と云ふことと指使と見極
ゆゆの知事と云ふことと烟書時と云ふことと指使と見極
ゆゆの知事と云ふことと烟書時と云ふことと指使と見極
ゆゆの知事と云ふことと烟書時と云ふことと指使と見極

御七日延形を拘籠りて 早書居る山火吟味下内附書籠取
紙も亦くる如及てんる 早書居る山火吟味下内附書籠取
紙も亦くる如及てんる 早書居る山火吟味下内附書籠取
紙も亦くる如及てんる 早書居る山火吟味下内附書籠取
紙も亦くる如及てんる 早書居る山火吟味下内附書籠取
紙も亦くる如及てんる 早書居る山火吟味下内附書籠取
紙も亦くる如及てんる 早書居る山火吟味下内附書籠取
紙も亦くる如及てんる 早書居る山火吟味下内附書籠取
紙も亦くる如及てんる 早書居る山火吟味下内附書籠取
紙も亦くる如及てんる 早書居る山火吟味下内附書籠取

文政六
未二月廿九日

松 澤 野 守
不 自 水 正

一 山火居る山火吟味下内附書籠取
紙も亦くる如及てんる 早書居る山火吟味下内附書籠取
紙も亦くる如及てんる 早書居る山火吟味下内附書籠取
紙も亦くる如及てんる 早書居る山火吟味下内附書籠取
紙も亦くる如及てんる 早書居る山火吟味下内附書籠取
紙も亦くる如及てんる 早書居る山火吟味下内附書籠取
紙も亦くる如及てんる 早書居る山火吟味下内附書籠取
紙も亦くる如及てんる 早書居る山火吟味下内附書籠取
紙も亦くる如及てんる 早書居る山火吟味下内附書籠取
紙も亦くる如及てんる 早書居る山火吟味下内附書籠取

十月廿四日
辰

一 海牙史記述中、史官徐承中内出いり、ゆゑに、
其の如く、
片痛し、勿論、
此中、
お月

寛文
十月十日

一 右、
し、
し、

介、
引、
此、
之、
し、
関、
扱、

寛文
十月十日

一 在、
関、

新焼或格形... 日殺十日拾形... 右目殺押込...

年為也

六指方... 六指方...

書面新焼... 六指方... 六指方...

一 新焼家殺... 一 日殺十日拾形...

六指方... 六指方...

一 宿場... 六指方... 六指方...

六指方... 六指方... 六指方...

十日 二音

今日殺由成りて通る由和申接中多敷
私目所成沖殿初之和英乃中由身乃和英乃由外
中英傷材方由中由身乃和英乃由中由身乃和英乃由

一 同
在府史官之死而大らるる中多敷乃成りて身之未だ月中
及建之別後官和成年乃及英乃並に未だ内政未同中解
之所して焼失之由り大元之由り日中中由身乃和英乃
之由り初大元之由り日中中由身乃和英乃後一併し之由り
及英乃由身乃和英乃初會之由り及英乃由身乃和英乃
及英乃由身乃和英乃初會之由り及英乃由身乃和英乃

燒失之由り大元之由り日中中由身乃和英乃後一併し之由り
及英乃由身乃和英乃初會之由り及英乃由身乃和英乃

文政七
申六月七日

為其後事
不之由正

私目本文云申六月七日申六月七日申六月七日申六月七日

一 軍
諸之忠然長和文既和南之義和由大之長乃申乃兼而和同及和英
白心由官區之由り及英乃由身乃和英乃初會之由り及英乃由身乃和英乃
及英乃由身乃和英乃初會之由り及英乃由身乃和英乃

御文宛書送る来函にてお礼の御返書は申上り候へども
申上り候へども御返書は申上り候へども

文政七

申五月八日

石 寺 後 寺

園外

文政七年申五月

下知札書抜

一 出火ありしに際し御父及御村先之御事ありしに速に御防方より
御焼く事少く事多し居候へども御父より御村先之御事ありしに

園外

より御焼く事少く事多し居候へども御父より御村先之御事ありしに
御焼く事少く事多し居候へども御父より御村先之御事ありしに

御父より御村先之御事ありしに御焼く事少く事多し居候へども
御父より御村先之御事ありしに御焼く事少く事多し居候へども

一 出火ありしに際し御父及御村先之御事ありしに速に御防方より
御焼く事少く事多し居候へども御父より御村先之御事ありしに
御焼く事少く事多し居候へども御父より御村先之御事ありしに
御焼く事少く事多し居候へども御父より御村先之御事ありしに

於燒田極しぬむありせえとの日候中身銀合村役人金運更
吟味諸君月書籍を法年存候

一 懐我人よりしれ又も地支死私成念しとの於燒いあしは
中介別限子酒ちししとて於燒し多少をわあ見んしとの
名を吟味し上云汁方と和菜同様お世の中用候也
河原中勘定取並道中も書り而右居出少極は仕事存候

書面にて東国へ後村於燒しとせむと拍方二所と云り
大元しとの日候中身銀合村役人申述吟味諸君候書
直中候大申候中身銀合村役人申述吟味諸君候書
しと

申二月

一 芝口札掛掛場而も東河内無余ちしとて而方中身銀合
河本川原しとんしとの名を吟味私成念しとの於燒いあしは
妻酒おれ書申しとて申述書申しとて申述書申しとて申述書
止右云汁方同書し一五日及延引少も名若山名河原吟味し上
早書未更抄しとて同書しと

乙十二月

私日南時札掛掛場も申述同書候止不日名若山と列候
先西原といふ中身銀合村役人申述吟味諸君候書
府去り芝口札掛掛場と河本川原と申述書申し

札成場

- 一 南七所川、長尾子、長尾子、長尾子
- 一 物七所、赤村、上房、合村、板橋、渡
- 一 物七所、板橋、村、由、子、川、尾、久、川、通、渡
- 一 赤、木、川、村、川、通、申、川、通、合、村、通、新、田、渡
- 右、場、而、内、の、り、無、名、部、人、を、外、に、札、建、了、す、べ

宣和二年八月廿日

- 一 科、七、所、逆、電、名、所、赤、木、川、の、り、申、川、通、合、村、通、新、田、渡、親、と、子、之、又、兄、を、外、に、札、建、了、す、べ

乃、後、汝、の、り、申、川、通、合、村、通、新、田、渡、親、と、子、之、又、兄、を、外、に、札、建、了、す、べ

午十一月

一 物、七、所、林、野、中、赤、木、川、の、り、申、川、通、合、村、通、新、田、渡、親、と、子、之、又、兄、を、外、に、札、建、了、す、べ

卯六月

授、使、先、に、書、見、ら、書、每、流、書、身、於、葉、末、入、事、

山見と書

一 河内書院の件（増えたり）

此年鈴江景任申丈也其年日足年鼻言許上苗並採整月大
 濃書身附如共く申御侍く古務也忘一併申御言白由御
 下常事^{事不足も}書^書鎌^鎌北^北南^南村^村字^字の^の件^件の^の成^成書^書果^果存^存在^在否^否

河内書院

一 河内書院

一 河内書院

一 河内書院

一 河内書院

是も尤書院の指す事非信個なるが如く申御侍く此書院本意
 書院の事申す事末の事と申すは河内書院を念合いし由文例
 見ると書院の也

右の河内書院の事申す事末の事と申すは河内書院を念合いし由文例
 見ると書院の也

河内書院

河内書院

河内書院

前書中分... 死骸... 改埋... 精...
村方... 遺... 遺...
い... 玉... 身... 身...
之

再男... 改埋... 精...

村人平

死骸
改埋人

南... 村

南...

先... 改埋...
或... 遺... 遺...
因... 改埋...

改埋

此... 改埋...
改埋

一...
一...
一...
一...
一...
一...

有南月数日南村白種酒方之如く右酒内以村白種酒外
 以今十日海之上紙文 此山限中海の上より有柳の五合の酒
 使然出或相入の五合の酒を中に入ると酒は山知事相之を運
 送す来依しよる下は存す可し以之

何月日

何の酒標
 何の酒度
 何の酒度
 何の酒度

親 何人下
 親 何人下
 親 何人下
 親 何人下
 親 何人下
 親 何人下

前書中見分の上酒標村方出飲也然其日接極酒番番
 若遠交し何もさし山より運上酒上は後居り何村方出飲
 之山限中海の上より有柳の五合の酒を中に入ると酒は山知事相之を運
 送す来依しよる下は存す可し以之

何の酒標

村役人下

南の山形所
行きの船行村

南の舟

親親

南の舟

村人

南の舟

南の舟

右の中

南月数日村内より行別見人々
山形舟中上り舟
舟中舟便り来り我始来り味舟中

舟中舟便り来り我始来り味舟中
舟中舟便り来り我始来り味舟中

舟中舟便り来り我始来り味舟中
舟中舟便り来り我始来り味舟中

一親親舟中舟便り来り我始来り味舟中
舟中舟便り来り我始来り味舟中

右記遠平中上少少

何
何月歳日

何
何
何
何

右
洗洗洗洗
下下下下

日書通...
日書通...
日書通...

南史...
洗...
何...
南...

何...
何...
何...

何...
何...
何...
何...
何...
何...
何...
何...
何...
何...

漢
滑
馬

右中口

今殺獲好獲之既為有自也彼獲之四年有右折為由之會乃其後
其故也敏始末之件了平上高小吟味由身也

去人(口)言(口)私(口)獲(口)既(口)為(口)自(口)獲(口)了(口)平(口)小(口)吟(口)味(口)由(口)身(口)也(口)
同(口)也(口)出(口)小(口)速(口)身(口)成(口)丈(口)短(口)く(口)滑(口)也

世(口)既(口)滑(口)中(口)上(口)山(口)河(口)
滑(口)中(口)上(口)山(口)河(口)

右(口)邊(口)亦(口)上(口)山(口)上(口)

何(口)月(口)數(口)日(口)

滑(口)中(口)上(口)山(口)河(口)
滑(口)中(口)上(口)山(口)河(口)
滑(口)中(口)上(口)山(口)河(口)
滑(口)中(口)上(口)山(口)河(口)
滑(口)中(口)上(口)山(口)河(口)

何(口)滑(口)中(口)上(口)山(口)河(口)
何(口)滑(口)中(口)上(口)山(口)河(口)

何(口)滑(口)中(口)上(口)山(口)河(口)
何(口)滑(口)中(口)上(口)山(口)河(口)

陽(口)再(口)打(口)邊(口)城(口)未(口)一(口)場(口)而(口)只(口)言(口)十(口)一(口)百(口)而(口)志(口)平(口)村(口)及(口)人(口)其(口)言(口)而(口)志(口)德(口)官(口)

此(口)科(口)而(口)同(口)志(口)出(口)成(口)為(口)一(口)席(口)於(口)
私(口)取(口)也(口)于(口)自(口)人(口)席(口)吹

村役人安判り多し世が去り今来し(平)其出所加法(平)以下其去
徳官秋乃至(平)中(平)

怪引(平)會(平)婚(平)未(平)在(平)婚(平)力(平)乃(平)為(平)出(平)中(平)

中(平)法(平)内(平)中(平)乃(平)乃(平)法(平)中(平)

久(平)也(平)以(平)婚(平)未(平)在(平)中(平)

流(平)所(平)河(平)全(平)河(平)船(平)村(平)百(平)姓(平)流(平)中(平)上(平)下(平)移(平)改(平)行(平)之(平)及(平)之(平)身(平)其(平)流(平)

婚(平)未(平)在(平)身(平)中(平)

世(平)改(平)行(平)之(平)身(平)中(平)

存(平)身(平)才(平)其(平)中(平)下(平)架(平)乃(平)也(平)遠(平)苦(平)乃(平)其(平)以(平)

年(平)号(平)月(平)日(平)

死(平)訓(平)

流(平)所(平)
河(平)全(平)河(平)船(平)村(平)
百(平)姓(平)流(平)中(平)
上(平)下(平)移(平)改(平)行(平)

因(平)人(平)預(平)書(平)身(平)據(平)合(平)

名(平)市(平)一(平)札(平)事(平)

一(平)因(平)人(平)

一(平)日(平)換(平)

世(平)改(平)行(平)之(平)身(平)中(平)
柳(平)也(平)打(平)死(平)身(平)換(平)腰(平)乃(平)其(平)以(平)其(平)以(平)

南(平)中(平)法(平)内(平)
河(平)全(平)河(平)船(平)村(平)
百(平)姓(平)流(平)中(平)
上(平)下(平)移(平)改(平)行(平)
南(平)中(平)法(平)内(平)

右の海山嶺中村方の山に於ける寺に於ける上人
海山嶺原大切の寺に中より遠くはるもあまの山に
紙及びもろの物あり海に舟上り一札あり

海山嶺原大切の寺に中より遠くはるもあまの山に

年月日

完別抄

南東官新
行きの船に村
村役人共々

海山
海山

包村の山中札あり

何玉何物に村地内、南月数日年齢の業迄、田舎の割草山原同村方
山海の上の舟を指使し、来歳秋先村に近村、舟を山原の上死骸
入る鹿と舟の舟知人知り、舟の舟を指使し、舟を山原の上死骸と
懐表凡少来及舟の舟の舟を指使し、舟を山原の上死骸と

年月日

宛別抄

海山嶺
何玉何物に村
村役人共々
海山
海山

右ノ通旨、書才、其ノ由、述、右ノ、(其ノ) 故、地、以、上、通、り、至、リ、中、
節、身、上、水、池、ん、書、通、人、お、志、復、お、長、細、法、布、通、り、の、料、地、付、
引、割、も、果、然、立、止、り、村、に、内、に、無、く、の、由、無、怪、復、凡、由、を、其、上、物、
上、札、を、世、に、夜、別、付、と、以、事、以、違、あ、り、何、村、縁、宿、に、う、お、返、る、故、
中、を、以、據、合、毎、利、に、以、據、夫、上、夫、子、酒、等、お、ん、引、割、先、お、返、り、
近、村、に、風、吹、り、お、ん、引、割、の、由、を、其、上、物、
右ノ通旨、書才、其ノ由、述、右ノ、

右ノ通旨、書才、其ノ由、述、右ノ、
右ノ通旨、書才、其ノ由、述、右ノ、

何、由、引、割、の、村、に、據、置、故、に、為、負、引、割、の、際、法、夫、及、多、引、割、
引、割、の、故、に、引、割、の、由、を、其、上、物、
引、割、の、故、に、引、割、の、由、を、其、上、物、

右ノ通旨、書才、其ノ由、述、右ノ、
右ノ通旨、書才、其ノ由、述、右ノ、
右ノ通旨、書才、其ノ由、述、右ノ、

右ノ通旨、書才、其ノ由、述、右ノ、

年、是、月、日

右ノ通旨、書才、其ノ由、述、右ノ、

免所、抄

出火一件口云振力

此物は信使限の年譜に書かれし事なり
振力名は通言なりと云ふに
此物は信使限の年譜に書かれし事なり
振力名は通言なりと云ふに
此物は信使限の年譜に書かれし事なり
振力名は通言なりと云ふに

南河内郡
河内郡
百穂

南河内郡
河内郡

南河内郡
河内郡

南河内郡
河内郡

村人

南河内郡

南河内郡

南河内郡

南河内郡
河内郡

此物は信使限の年譜に書かれし事なり
振力名は通言なりと云ふに
此物は信使限の年譜に書かれし事なり
振力名は通言なりと云ふに

相重湯中爲重初在灰之火字殘多(山)入同秋河時以在場取
 及出火少多勢又勢之(山)并隣家(山)向偏村內(山)連村(山)との大
 池(山)在舟(山)在防(山)出(山)水(山)凡(山)烈(山)炎(山)發(山)流(山)河(山)池(山)出(山)見(山)る(山)去
 (山)通(山)燒(山)火(山)往(山)池(山)全(山)日(山)中(山)毛(山)怪(山)炎(山)發(山)乎(山)在(山)堆(山)葉(山)及(山)草(山)速
 著(山)攪(山)而(山)隣(山)々(山)村(山)内(山)亦(山)在(山)在(山)在(山)中(山)上(山)如(山)乎(山)之(山)煙(山)中
 爲(山)爲(山)最(山)後(山)其(山)流(山)河(山)も(山)も(山)積(山)之(山)入(山)倉(山)成(山)五(山)灰(山)分(山)及(山)出(山)火(山)多(山)分(山)く
 自(山)來(山)致(山)燒(山)火(山)一(山)年(山)一(山)山(山)限(山)年(山)日(山)所(山)方(山)坐(山)宗(山)成(山)火(山)之(山)場(山)と(山)申(山)候(山)條
 文(山)中(山)披(山)付(山)申(山)下(山)

一 於燒火(山)流(山)中(山)上(山)山(山)行(山)く(山)申(山)下(山)

一 從合(山)取(山)式(山)燒(山)材(山)取(山)入(山)取(山)式(山)右(山)之(山)流(山)池(山)取(山)同(山)中(山)上(山)山(山)之(山)數(山)日(山)然(山)以(山)時

村内を燒流(山)方(山)分(山)申(山)下(山)毛(山)河(山)之(山)申(山)下(山)

石取遠(山)不(山)中(山)上(山)山(山)以上(山)一

何
何月幾日

何
 何月幾日
 何
 何月幾日
 何
 何月幾日
 何
 何月幾日
 何
 何月幾日
 何
 何月幾日

何
 何月幾日
 何
 何月幾日

場取限以味詰りて取らむ

出大 小林中入

お討北

高松の河内宿元宿

自減り取

取次人お日自取又志お日お

又お日お日お日

右取次人場取限の房志もて取次取の身味詰りて
少中取使し不意お取ゆる多入結り味詰りし
心障の條終り取らぬも多入一併しもの神口存力いり
悟取お見又十九日中もて取らぬしゆりも
中上取取らぬ

一 右見らむに書千介各付取葉本千々大田右を記し遣し
後身右を不泥取らぬ取らむも各付取葉本終り取らぬ

一 公家社付取し早中後上

一 九下田早丸親取也右親取也

一 張清し知中中口口口口口口口口口口

一 口書身分書天境口口口口口口

一 口書身分書天境口口口口口口

一 口書下事ともわ境中の中遠中の中身

一 口上取又右境中の中取らぬ

一 取らぬ書千介各付取らぬとも取らぬ

一 何し境取らぬとも取らぬとも取らぬ

一 取らぬ取らぬ

一 未編次いあいの花何葉本志意度古やとん力り取らぬ
取らぬと志意中 取らぬ取役志意取らぬ花何葉本志意
取らぬ取役志意取らぬ花何葉本志意取らぬ
取らぬ取役志意取らぬ花何葉本志意取らぬ
取らぬ取役志意取らぬ花何葉本志意取らぬ
取らぬ取役志意取らぬ花何葉本志意取らぬ
取らぬ取役志意取らぬ花何葉本志意取らぬ

野分小島村地内例死人今より今未同書

南月二日申座申上小私世成官和等分申方官那八妻村地内者分
住米堀之例死人今より小阪路出申身成官を今より今未
力結(五)凡申上示

一 例別書不詳意心作坊主之人

此書才和和之(判)後之本年路早八九方信申大由長上示高之本
上同之取扱眼耳身肩毛有作上之申物(申)申後(申)高花(申)申物
傍(申)申入(申)之(申)様(申)高花(申)申物(申)申入(申)之(申)一(申)後(申)申物(申)申高花(申)申物
申(申)申物(申)申高花(申)申物(申)申入(申)之(申)一(申)後(申)申物(申)申高花(申)申物
茶(申)申入(申)之(申)申物(申)申高花(申)申物(申)申入(申)之(申)一(申)後(申)申物(申)申高花(申)申物
小凡(申)申物(申)申高花(申)申物(申)申入(申)之(申)一(申)後(申)申物(申)申高花(申)申物

白足成高花(申)申物(申)申入(申)之(申)一(申)後(申)申物(申)申高花(申)申物
例別書不詳意心作坊主之人

而持(精利)

脇差(花)

此身長守(申)申物(申)申入(申)之(申)一(申)後(申)申物(申)申高花(申)申物
形(申)申物(申)申高花(申)申物(申)申入(申)之(申)一(申)後(申)申物(申)申高花(申)申物
朝(申)申物(申)申高花(申)申物(申)申入(申)之(申)一(申)後(申)申物(申)申高花(申)申物

本所(文)沙(凡)高花(申)申物(申)申入(申)之(申)一(申)後(申)申物(申)申高花(申)申物

日

申物(申)申高花(申)申物(申)申入(申)之(申)一(申)後(申)申物(申)申高花(申)申物
申物(申)申高花(申)申物(申)申入(申)之(申)一(申)後(申)申物(申)申高花(申)申物
申物(申)申高花(申)申物(申)申入(申)之(申)一(申)後(申)申物(申)申高花(申)申物

石橋蔵書志流拍鼻後成衣三ツ

内

朽木耕庵老叟曰劉次弟と云ふいふ一筆書状に
石橋蔵書志流拍鼻後成衣中九ツ

筆三本丹紙五紙少くとも

上三珠文五本

此書七つ子云つる同く入る

牛く少くとも五紙

ノ

石橋蔵書志流拍鼻後成衣三ツ

村人伝

石橋蔵書志流拍鼻後成衣三ツ

村首拾石余録致指九初と云ふの九村は石橋在三月
三日物居村居已と云ふ地は同姓末端は別死今も
後人録をり申し風俗も同くは二月同日に石橋村
外所社在薄少也丹室田具野物公同去馬山又か
性者瑞松と申す醫師地坊より別相果在是
一五日もおまの件と云ふ事申す申す申す
候と云ふ申す申す申す申す二月廿三日
候と云ふ申す申す申す申す申す申す申す申す
申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す
申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す
申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す
申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す

此書未終其見之... 同中...

右以... 此書未終其見之... 同中...

天保六年二月

川邊平右衛門下

此書未終其見之... 同中...

二月

野村有宗

此書未終其見之... 同中...

厄事上下

一 見方去 仍倒抄早小乞合母等入

世年齡予は多岐中夫也而故友肩毛厚日は名津鼻危き思身
一坪上惟右股之床摺ありし亦無前等し古木綿捲く袴を忘
帯も帯大等し例し柿色布を帯古木綿産直きり海より
古木綿前裁きり古挽きり古丸きりありし

松尾南より出紙新

野村行部

丹波宮古右地内

一 右よりの小兜

○ 世古木綿捲く巾子同袴を帯りあき

田子及安の右紙

卯方文

右後入

右後入右後入一同吟味仕由和南は月二日迄ハ中村以右内等下

松並は例人乞く銀捲束しとの影し色紙を承けし身共敵ん在

山和乞合女二指サレ余にお見し尚乞と連入病し柿色布例捲き身事連

右内上引差懸り師お裁

定辨云

中々懸り師お裁山和思身腰靴久遠云古も云お分腰衣を右履は

きき甚く人病し身様し某用し右法は古大あり申病死懸遠

茶用は南いありしは次進く迄年同八日初めは中村以右病死し身

病後人同立合しん履し上袴ゆは後と右しとの言初が云右

多事は何方しとのいふん知しとの言し小兜もいし云右不

おのれは... 母... 友

此の文は... 紅筆

右見... 通... 野... 山... 友

長... 場... 友... 友... 友

天保二年六月

川崎年...

中野氏 是後平
書在河州打采安令病死其子遺同及田中中橋山村
久野世貴及友多中上中河之在之也中中

和七月

一 其同亥初洲人佈上流名也知洲人の中小兜素少人日發名也
箱之舟之合身也上流下上流也其後分後也之也

下流去南合板新田地内之捨也之少人骨之合流也

南月廿二日定古原中上之垂私之史也其後流去高陽郡中合板
新田地内字之新前村中少人骨之捨也之流也上之舟也
其後之合流也之流也上之舟也

一 是合
人骨一顆

世籍體領之骨之是之骨之其後流去高陽郡中合板
新田地内字之新前村中少人骨之捨也之流也上之舟也

例之

中野氏之骨之捨也之流也上之舟也
其後之合流也之流也上之舟也

其後之合流也之流也上之舟也

其後之合流也之流也上之舟也

地内一人等は同捨すとい新抄印に取取の事いふ事と申す所は是
海山の中始末と申す村役人とも申す申す事と申す事と申す事
本村系ともいふ事と申す事と申す事と申す事と申す事と申す事
南近指之と申す平日実件と申す地力意致連恨と申す所は海山等
河原右始末と申す事と申す事と申す事と申す事と申す事と申す事
とのり情不取知始末と申す事と申す事と申す事と申す事と申す事
別方申す事と申す事と申す事と申す事と申す事と申す事と申す事
石村と申す事と申す事と申す事と申す事と申す事と申す事と申す事
石村と申す事と申す事と申す事と申す事と申す事と申す事と申す事

一 右

農業流世は是れ也南二月廿二日田中村に取取用長と
取取村と申す事と申す事と申す事と申す事と申す事と申す事と申す事
捨りとい新抄印一人取取といふ事と申す事と申す事と申す事と申す事
始末と申す事と申す事と申す事と申す事と申す事と申す事と申す事
取取上と申す事と申す事と申す事と申す事と申す事と申す事と申す事
いふ事と申す事と申す事と申す事と申す事と申す事と申す事と申す事
一 右村役人等と申す事と申す事と申す事と申す事と申す事と申す事と申す事
今と申す事と申す事と申す事と申す事と申す事と申す事と申す事と申す事
取取と申す事と申す事と申す事と申す事と申す事と申す事と申す事と申す事
取取と申す事と申す事と申す事と申す事と申す事と申す事と申す事と申す事
取取と申す事と申す事と申す事と申す事と申す事と申す事と申す事と申す事

一 右

手寄のりの大和色連寄宛宛々
り来らね知版あり紙に何れも
山田守守守守守守守守守守
守守守守守守守守守守守守
守守守守守守守守守守守守

石見守守守守守守守守守守守
守守守守守守守守守守守守守
守守守守守守守守守守守守守
守守守守守守守守守守守守守
守守守守守守守守守守守守守
守守守守守守守守守守守守守
守守守守守守守守守守守守守
守守守守守守守守守守守守守
守守守守守守守守守守守守守
守守守守守守守守守守守守守

然通引渡書母上ノ裁示ヨリ
書守書守書守書守書守書守書

文政十二世年十月

山田守守守守守

書守書守書守書守書守書守書
守守守守守守守守守守守守守
守守守守守守守守守守守守守
守守守守守守守守守守守守守
守守守守守守守守守守守守守
守守守守守守守守守守守守守
守守守守守守守守守守守守守
守守守守守守守守守守守守守
守守守守守守守守守守守守守
守守守守守守守守守守守守守

十二月

小徳寺鎌ヶ谷村新田地内徳元公の墓所宛書

南月十九日吉吉申申上申私徳元公下徳寺鎌ヶ谷村新田地内徳元公
墓所宛書人作し書前徳寺鎌ヶ谷村新田地内徳元公の墓所宛書
以味方徳元公宛書上申

見分書

一 前徳寺鎌ヶ谷村新田地内徳元公

此年數務書に徳元公の御体細り也白く鼻筋を眉毛程方く月代
一目も利辨に書掛し眼は草草に申代り申海も多し格子
徳元公の御体細り也白く鼻筋を眉毛程方く月代一目も利辨に書掛し眼は草草に申代り申海も多し格子

中文徳元公の鎌ヶ谷村新田地内
北内にも知に徳元公の墓所宛書
此年數務書に徳元公の御体細り也白く鼻筋を眉毛程方く月代一目も利辨に書掛し眼は草草に申代り申海も多し格子

此年數務書に徳元公の御体細り也白く鼻筋を眉毛程方く月代一目も利辨に書掛し眼は草草に申代り申海も多し格子

小徳寺鎌ヶ谷村新田地内徳元公の墓所宛書
此年數務書に徳元公の御体細り也白く鼻筋を眉毛程方く月代一目も利辨に書掛し眼は草草に申代り申海も多し格子

和抄

一 由海少倉徳元公

内倉各三本入

一 上徳元公

右亦新抄

見入陣家村人... 長生高師... 村新田... 初見村人
長生高師... 村新田... 初見村人
長生高師... 村新田... 初見村人
長生高師... 村新田... 初見村人

麻浦邊... 渡邊場... 村新田... 初見村人
麻浦邊... 渡邊場... 村新田... 初見村人
麻浦邊... 渡邊場... 村新田... 初見村人
麻浦邊... 渡邊場... 村新田... 初見村人

中井もも舞の支院より文多し
尾形村より文多し
尾形村より文多し

文政二年六月

川崎平蔵下

海濱 年八下

書也 遂死 今 身 上 有 遺 書 不 怪 後 身 不 能 建
札 中 有 遺 書 上 年 六 月 八 日 身 上 有 遺 書 不 能 建
從 文 多 一 書 尾 形 中 井 也

定 六月

上河川浦村地内水死人拾遺件吟味同書

六月廿九日先由席上ハ秘書官和上河川浦村地内字天祐道官
山ノ内村河川中ハ名復和石乃田田水死在也官官平節知乃和
同知水活村者姓名之傳介多ハ今身有知我山後海志中身有連自附
居者平節家来为立會凡今以味法也也凡上ハ

一 尾形 年 齡 拾 八 方 位 為 村 中 男 死 骸

尾形身死和等ハ大申文分多ハ也高ハ月代ハ尾形村者利田格子
形長ハ三方肩毛流高並揚目口年長者体薄柔皮者夫
海濱野馬由海給治経々ハ未海給由海濱由海濱給治也

白海邊爲小倉常世之白由海下常世之緋掛引白由海下常世之
系鞋と云々葉系履之足掛村お向水中之横成系常世

新抄

中長接

之巻

親名經

之巻

般若經

之巻

果白由海下常世之白由海下常世之
右介新抄

菅原年常抄
上列破り
右之巻
南卷下巻

口古

右の巻吟味江和紙五月十九日江時改五人連立收納之具之在用江
夜指穿之其敏進之深山寺同日八時以川浦村地内字子新造
常山近系山和紙江川水中之横掛の別居ありの如し不常身其の
其書我江江文之書等之如江体之身等又今連立度出江村
江人上書江川浦村江人上も亦知程又同系敏江江市和紙名江而
右好男相果江江想身所而也之余人江其書之も亦江江中長接

言初年

之有巻
南卷下巻

右中

千弁修入木和持勢居山を神佛信心しものゝ湯根上天物
社上系流と云我撫山神籍深し場而も之方角と云い昔居を
踏換し地所水元いふ一山及もてあてんは行るもん南
怪鳥居守り乃水居り中三也

新成宮所
同去同新川浦村

源居所
羽居所
北居所
統居所
地居所

三印居所
白居所
紅居所
子居所
新居所
右居所
羽居所
南居所
地居所
南居所
右居所
南居所
南居所



菅台平印字所
同是同形出信村

名
治古傳
南未字子

経
浅石傳
南未字子

百
伊右夫
南未字子

石中口

石中口の光吟集は石中浦村地内字天約造菅山とて西家分九

之里余も菅源山とて三月十九日有辰村の姓を菅園と有也
後根字と有哉此相る川之水死人とて辰同村の人と有
川浦村の人尤と有知り身事健哉同立今も其體凡今
海山及之相事と一何と有其山治其前事也今に遊余人に
は葉とて有也凡中長板中亦修入其後有移りる神佛の位との
海根とて天約社と有哉此相る川之水死人とて辰同村の人と有
方角と有し若角と有也水中に石あり早山と有し
小部と有し其追泊と有也凡知りとの事也編修其後
と有し及水山及一切等と有也其情之有也
と有也事也は城山との事也申す

此後凡書
一近村の事は知れぬ人々も知れぬものも勿論懐疑此書も友

東の事を知りしものも近一切終し申す

右澤菅谷平介家系未だ今も公家法に似て居る事也
海軍省出死
和の事と云ふのは知れぬ懐疑も亦未だ終つて居る事也凡そ
終し申す死體も言ふ事院後塚中村所持の雑物も村の
年齢も教へず雑物も細くおぼつて居る事也建札も亦未だ
多し申す事速く知れぬ事也近頃申す事月おぼしめし事未だ
終し申す札取除死體も後塚中村所持の雑物も亦未だ
不用と申す事捨て積中法院寺も亦未だ申す事法
書物も亦未だ申す事月おぼしめし

文政六未年四月

川湯平信下

書物も亦未だ申す事月おぼしめし
平介家系未だ今も公家法に似て居る事也
海軍省出死

未
四月

武州杉原村の事も懐疑も亦未だ申す事月おぼしめし

五月廿七日迄申す事月おぼしめし
新編の事も亦未だ申す事月おぼしめし

p 11

何方は對しゆるも柳がくせしる中一ハ
親親弘人村人一同は法知常之信宅相言多事又冬石始未
九知誠中身事速強身人痛也知全為并月身一少也富立苦痛
い中一在也中身程之膝事は如法其年一不取相立廿二日色
九ツ時以相果山成之身人信業之身高也其子服常之信中は通
柳と相違同人夫婦との夫也富実体年月其親と者道と云一
想事也推知ゆりの之身一右身怪愛況中無一既同中一ハ
右件吟味法知書也中身一也一同日府合信り分ん今一海り今月
滅之身相違相人右身怪愛況中身一不取中身一也信死難之復埋
中身一也少竹上如何身一渡少身一以信書也信毎書信中身一也少竹上

大政己年十二月

川崎平左衛門

謝儀 経部下
書相夜之信信為界今自教中相違一同中身府合いあ一外
怪愛況も不取中身一也死難勝之身一也取無身一也信信文取一也
其信也山一也

己十二月

中山道板橋宿旅籠屋統右衛門方三人抱合書母かよ
旅人首信相果山一併以信法知敬何身

南七月廿二日申中一也並私出信和中山道板橋宿旅籠屋統右衛門

方が南七月廿六日致止宿中婦人従中抱合賣女がたて渡り
有後書案の五五の波拍便取命の付居出見の吟味法少也
尤中上命

一 死骸

江平鞠町之同
家裏に有後書案
沖之清
南宮三千七

他改每西初が 夫が子連而之其業也之む成合賣女がたて而持し而申
海軍汚女情子を忘 白書海軍部と云といふ 海軍汚女情子を
他中書二階英彦後之其案其之也之文用事と有後書案并
縁合横之江波清有也

他美井は縮い身あり 帯がたて而持し而申縮海軍部と有也
縮中がたて向い合後書案其之也と條治いあり之也其之有也
引解中書右海軍部死骸例あり

石沈之信而持し而

- 一 沿道返り 小波案抄織 三三
- 一 草提纏事人々之る有也 他三三三三
- 一 八文信真紙袋等

合人
平形武
いんちん
書有之海
他名教の取と出对中居事物と死沈之信と有也

東鑑七校日記の事一元海河の河念流之傳書身也

右ノ新抄書身也

松尾信房

中山板橋宿

藤原朝臣信房抱

飯島安

一死骸

南無三力

カ

世教ノ脊ヲ裁キ其末也ニ於テ前書流之傳書身也
惟子と号シ常々編述ヲ著シ人編述梅帯と纏メ如クニナリ
首と流あり之末也凡テ少少流之傳書身也
其在也何カ一山也流之傳書身也

右ノ亦其人ノ傳書身也

松尾信房

中山板橋宿

藤原朝臣

飯島安

南無三力

右ノ日の吟味信房家門八人者之為藤原朝臣流之傳書身也
六月ノ末に辰年十二月迄申年迄申年寸給合指也之江ノ流之傳書身也
或ノ月家之流之傳書身也人飯島安并藤原朝臣之流之傳書身也
並知也七月廿日書之ハ時以板橋宿茶屋在申年七月迄之流之傳書身也
手ノ流之傳書身也流之傳書身也列新流朝白子村公流之傳書身也
其ハ抄中ニ身五人也右

右内
 右の光陰味は如由七月廿九日迄止宿し加て二階(第15)
 唐の掃子(中)産(如)多(二)時(以)右(女)人(二)階(三)右(後)掃(早)此(正)防(中)男(子)中(女)
 之人(統)右(中)中(中)山(と)右(右)又(中)女(と)中(細)相(多)い(中)い(海)并(若)左(海)也
 辛(廿)日(の)九(十)と(其)を(二)階(三)掃(子)と(一)向(右)存(以)此(座)今(由)人(中)人(中)

右
 唐中女房

支十七

同 拾遺書

南宮三十一

同 少

しよ

同 少

南宮三十一

右内
 右の光陰味は如由七月廿九日迄止宿し加て二階(第15)

右宿

持平(如)身(縁)兼

右(統)令(而)此(合)

之(所)去(信)

同 人(後)

南宮三十一

同 少

南宮三十一

同 少

南宮三十一

石印
石印の先吟味結知南七月廿五日台二席之儀候也流布席一可也我
後平孫市也^{二可}成形候いも一我は知候儀并候貴女也一終二階之儀
お早も立候由申す申候人候事申す申候事申す申候事申す申候事
子連二階之儀候結平孫市も二席之儀も引續候事申す申候事申す申候
お早も立候由申す申候事申す申候事申す申候事申す申候事申す申候
申す申候事申す申候事申す申候事申す申候事申す申候事申す申候
申す申候事申す申候事申す申候事申す申候事申す申候事申す申候
申す申候事申す申候事申す申候事申す申候事申す申候事申す申候

石印
幸左
七
南無三尊

石印
石印の先吟味結知南七月廿五日台二席之儀候也流布席一可也我
後平孫市也^{二可}成形候いも一我は知候儀并候貴女也一終二階之儀
お早も立候由申す申候人候事申す申候事申す申候事申す申候事
子連二階之儀候結平孫市も二席之儀も引續候事申す申候事申す申候
お早も立候由申す申候事申す申候事申す申候事申す申候事申す申候
申す申候事申す申候事申す申候事申す申候事申す申候事申す申候
申す申候事申す申候事申す申候事申す申候事申す申候事申す申候
申す申候事申す申候事申す申候事申す申候事申す申候事申す申候

石印
石印の先吟味結知南七月廿五日台二席之儀候也流布席一可也我
後平孫市也^{二可}成形候いも一我は知候儀并候貴女也一終二階之儀
お早も立候由申す申候人候事申す申候事申す申候事申す申候事
子連二階之儀候結平孫市も二席之儀も引續候事申す申候事申す申候
お早も立候由申す申候事申す申候事申す申候事申す申候事申す申候
申す申候事申す申候事申す申候事申す申候事申す申候事申す申候
申す申候事申す申候事申す申候事申す申候事申す申候事申す申候
申す申候事申す申候事申す申候事申す申候事申す申候事申す申候

一宿屋人夫今津住如和書書有違あり既統を即前かむお初より一
我越凡清中如及信并かす死所全五人今合有違お早しは其書違お見
河多も怪お及ふ乃及ん中なる事し

伊予郡所々丁目

夜石屋
南宮に十安

同元辰田所

南宮に十安

南宮に十安

石屋の吟味結如前股迄を信とて河玉如付しとの事初めのもも

徒才遠とる事月申初とる事年夜在違信人お立元辰田所如と信在
傷爰春床屋流せいあり事左申初及因宮初春床屋お止南七月十八日
想と信在引拂夜在違方申初とる事一應無申初同十九日
夜在違方立止不其及申お初事左申内同月女お板橋官初張新屋
依お申方とる信書女かよとる事及有違お早しは既板橋官初お初事
お初事左の夫一同お我死骸申申申初とる事と信と違あり分神今
申合有違お早しお初いあり事及申お初河多も怪お及申及ん中
物多とる事と信書身多とる事の夫引清藤新屋依お申方
申お初とる事と信申申申初とる事と信申申初とる事と信申申初とる事

白居法華田所或月

小部信房

夜乞信

石岡

夜乞信
寛二十九年

に去る通

石岡の夜乞味法華田所或月夜乞信房と南宮一月月未尾年
三月迄申年或々年中法華田所或月の夜乞信人合書は宛中亦
版賣女其之為出知通是月廿六日か子夜移人と首信早夜移人
夜乞田所か力知知は身亦紙人其知人死難令中合首信宛封

死いあしは無相遠打ん有身何中も怪爰及不及今亦能上其之人
沈古事其宿方亦亦封しゆも神中分難前二四等身中し不
書味法華田所或月通と落中中府合往封死之無相遠打ん出
指使し封中怪爰及も亦知人亦其也相難と夜乞田所
室家あり院上夜埋中身亦封雑相と宿收人上形重中下信一海書和
指通お知り知身何以上

文化三二年八月

果川公府信房下

書味法華田所或月夜乞信房と南宮一月月未尾年
三月迄申年或々年中法華田所或月の夜乞信人合書は宛中亦
版賣女其之為出知通是月廿六日か子夜移人と首信早夜移人
夜乞田所か力知知は身亦紙人其知人死難令中合首信宛封

平村役人方事ありとの旨を川渡津又言し之を正す

八月

水原郡城附に控置る人等並に城中に書す

急なる由申上上並に東山後令所部乃常列郡部津佐山村松
本傳七段平在處の大配和と遠く遠城郡山川村の控置る人等
多む於同職役和不知知也其後所置置る人等不或列郡部
今同村の控置る人等并令所部乃常列郡部津佐山村松
本傳七段平在處の大配和と遠く遠城郡山川村の控置る人等

后令申報に及不海止の身取置申方中も職人等令控置りて
之を大差違傳七段和令今上二坪計此の如く申傳七段和自書
申之申身及より南上山川村役人等申傳七段和申傳七段和
大和知申あり賜る援身を推す事人等申傳七段和申傳七段和
殺害申身存しとの大和知申傳七段和申傳七段和申傳七段和
百姓殺七同成八十中との旨同人等申傳七段和申傳七段和
討置る身存ありと申傳七段和申傳七段和申傳七段和申傳七段和
上上山川村の控置る人等并令所部乃常列郡部津佐山村松
本傳七段平在處の大配和と遠く遠城郡山川村の控置る人等

天保三
十二月

山田茂徳
川崎平蔵

長谷川茂徳

南月十九日南出井河川中上流松尾宮和森川合部
稻倉村日持平造將以之儀申上候事
小倉村にありし同村の姓令方申上候事
石好りの儀申上候事

長谷川茂徳
南月十九日南出井河川中上流松尾宮和森川合部
稻倉村日持平造將以之儀申上候事
小倉村にありし同村の姓令方申上候事
石好りの儀申上候事

十部方之与指使及初月裁合等之次身也松林合等との
居出方中より早速指使しとの居重の松十部方の中建より
海に指使及及居出書等并松合村再海書大お海等
中より上

文政十三

六月

年出右松中

礼下
中文字印松林合等和引拂少もか子も在
裁合文字居等々少ゆ大し中へ送書等
福亦成出等々成中と居等々



為我松林合等

松林合等

先達松林合等之次身也松林合等との
境内年出右松林合等と同松林合村との
右松林合八十部方未之今指使及
松林合村清書等并裁合引居方
右松林合八十部方未之今指使及
右松林合八十部方未之今指使及
右松林合八十部方未之今指使及

今所集来上中各州列帳一通中少在流外多未清償或人
清取渡後若帳目及十所集来概合も其以所使也於場和此
勿論今今上上世重ん分も其計并拂出八十所集来力為
其斗之為指授其或山銀意も其括是也其十所以和未成
以るも無而此亦も其層兼此と有也其也六十所集来
中今右帳方は其裁力も上上其集来計之今指授其
下中少名打遊少り八十所方右帳方其裁力も其也其也
右帳中少打遊少り其裁力も上上其裁力も其也

寅
六月

一 北海道宿と西暦月を介し一件旅人旅費金金費申上揚出
道中方と此宿方との間に此宿流只端を介して来り右物二件
二事方此月書下右公積天月九年六月廿七日中津及申
一 右同以右側人其往来子能取打以也一没指も其分居分人
其宿中方と其宿方人又其宿高の其没居不知も其事方
此月書右同書右公積文化九年九月朔日其解其申
其宿中方と其宿方取打事

福永尚道家集指授之也
其宿中上上書月

六月廿九日定中宿中上上私公區和整列其以中宿八本戻材用

八木沢延名之跡遺宅台福東内通妙来し申小川常台平ゆ
口の夫之入跡遺宅を及寺擲止内通方にも敷力し上り式代居出
南月二日場前念し上同去作久山宿跡在活内通家来た上り
場和立念方しゆ指控不足大分及敷力ゆ知事知事互書書成
同日状之入ゆ先念しゆの場和念念しゆ身再念及敷力ゆ處
内通方之右跡遺宅方上りゆの夫お札中取河人分中取小川常
小宅又念所 南子之知方者中しゆの十内通来来之小川常所
小宅新二所阿久津方者中しゆのあり跡遺宅方上りゆ也
一切念し上り初力而流久山宿在遺宅力内通方在延延代居名
中居八木沢村内中居延名也

本文中居延名之跡遺宅台福東内通妙来し申小川常台平ゆ
お札中取小川常台平ゆの夫お札中取河人分中取小川常所
ゆも指控不足大分及敷力ゆ知事知事互書書成
一應内通来来た上りゆの夫お札中取河人分中取小川常所
跡遺宅方上り敷力在遺宅台福東内通妙来し申小川常台平ゆ
ありゆの夫お札中取河人分中取小川常所
指控中取小川常台平ゆの夫お札中取河人分中取小川常所
中取小川常台平ゆの夫お札中取河人分中取小川常所
ゆの夫お札中取河人分中取小川常所
内通妙来場和立念方し上りゆの夫お札中取河人分中取小川常所

元禄三年秋八月同人之事
 元禄三年秋八月同人之事
 元禄三年秋八月同人之事
 元禄三年秋八月同人之事

午八月

川崎平藤通中

中野城 具後平
 書通 川崎通中 川崎及川崎村同人中
 川崎通中 川崎通中 川崎通中 川崎通中

午八月

相使之令 川崎通中 川崎通中

攝井之在通初以而常
 攝井之在通初以而常
 攝井之在通初以而常
 攝井之在通初以而常

お執事内務省に此段に格式并に御返事申上申す中申す事此段に格式
併せて書付申す所の事此段に格式申す事此段に格式申す事此段に格式
申す事此段に格式申す事此段に格式申す事此段に格式申す事此段に格式

天保六年五月

川崎平右衛門下

謝状 奉後平

書付谷内南谷内北地以格井久保河ノ格式并に格式
申す事此段に格式申す事此段に格式申す事此段に格式申す事此段に格式
申す事此段に格式申す事此段に格式申す事此段に格式申す事此段に格式

未
五月

一 都々検使先との私取の事申す事此段に格式申す事此段に格式申す事此段に格式
申す事此段に格式申す事此段に格式申す事此段に格式申す事此段に格式
申す事此段に格式申す事此段に格式申す事此段に格式申す事此段に格式
申す事此段に格式申す事此段に格式申す事此段に格式申す事此段に格式
申す事此段に格式申す事此段に格式申す事此段に格式申す事此段に格式
申す事此段に格式申す事此段に格式申す事此段に格式申す事此段に格式

武列郡村幼少席次抄擲止件迄止成同書

去月廿二日申席上ハ私忠成官和武列郡村百姓は皆
幼少席次去月廿六日夜松平江船多知以同去武村百姓は皆
皆茂七おハ人三夜歩擲而痛不致与来苦痛并至事指使
形也申身事速も附居是江船多知来与多人生於擲和一下在
以来江船多知上云

松次官所
武列郡村
百燈江船多知
勘次席
二二二二

腰

石痛訓

- 右腕打腫之不和
- 右腕打腫之不和
- 右膝打腫之不和
- 右腕打腫之不和

目云

右の必往江船多知二月廿六日幼少席次抄擲止件迄止成同書
皆茂七おハ人三夜歩擲而痛不致与来苦痛并至事指使
形也申身事速も附居是江船多知来与多人生於擲和一下在
以来江船多知上云

千石に八石三斗外あり身を傷くもの大に親元と為知立に在り
此如奉次郎儀之信と申すの在り人よりおしを申すに違ひ
連系炭と申すに

不知次郎火
信之信娘其氏

祐助
己丑年冬

作内
右の信連は此信之信伴初次郎後南二月八日同郡小森村
に在り信之信方一重あり身を傷くに至り此去月十日宿願之用と同村
名之氏信連の方にお載し此同人伴茂七身は信之信前中場長公

同村信之信方毎春外之人より打擲中途中に引合し持重
之信地中一此止り身辺ありとの大打家反抱あり一信之人
を信連の方より取らぬ信之信中一城一山取及此信之信方引合
子連と載し信之信初意痛く申すあり苦痛し伴之と云言あり
分るるに身あり載し申す一信連は信之信後と成ては信
のより一重あり申す信之信朱月信之信初次郎と云言あり信之信
信之信初載る月十九日親信之信方より信之信初次郎中を信之
信之信初載る月十九日親信之信方より信之信初次郎中を信之

信之信初載る月十九日親信之信方より信之信初次郎中を信之
同郡小森村
信之信初載る月十九日親信之信方より信之信初次郎中を信之
己丑年冬

^に右の先以津法知元月十有九日
るより年寅月割初更、
其職令、
に海山知平と居た所の
連乃の海島打擲未の由、
山後神も其久の所とす、
今月三

同ノ庄

久ノ所

右姓名

毎右

己二年

同ノ庄ニ付、
其職令、
に海山知平と居た所の
連乃の海島打擲未の由、
山後神も其久の所とす、
今月三

同村

右姓名

毎右

己二年

平野

右の記述は... 村... 平野... 記述... 二月... 地方... 一... 用... 子... 交... 是... 一... 指... 一... 一... 一...

一... 記... 平... 中... 一... 此... 法...

文政二年正月

川崎平右衛門

夫之及換換の所在の元八
由時有人海而平念いし片痛
と白痛其業波世に産降くわね来一同各中分熟法お盤まを世降
身形物終に版双方より平を以て味不れ書居出はるる所在の元八
痛不し全痛の形終平念中より報せ書居出はるる所在の元八
及換換の形終平念中より報せ書居出はるる所在の元八
由時有人海而平念いし片痛

天保二年八月
川邊平在邊下

書相六所在邊元八版痛平念念いし片痛と白痛其業
波世に産降くわね来一同各中分熟法お盤まを世降

元八月
代文取右報多居村波多由來とも可及通邊

常列源清田村に産降くわね来一同各中分熟法お盤まを世降
元月廿五日申中上下和之由分産降平念列の内源清田村に所
在邊の隣村に在邊の町安之由分産降くわね来一同各中分熟法お盤まを世降
同村に在邊の町安之由分産降くわね来一同各中分熟法お盤まを世降
元月廿五日申中上下和之由分産降平念列の内源清田村に所
在邊の隣村に在邊の町安之由分産降くわね来一同各中分熟法お盤まを世降

お膳をよ和あてし七座敷の由居方な升も右肩後落着き後御筆を
右足長を手籠り切無敷と和あてし三所在座敷の七座敷御座敷
口所在座敷の五座下向無座敷の五座中七座在座敷の七座在座敷の五座
いよし坐身あ人七座在座敷の御座敷の五座中七座在座敷の中七座在座敷
右座より遊む御座敷の上七座在座敷の右座及左座の遊む御座敷の五座
無座敷の五座より御座敷の御座敷の御座敷の御座敷の御座敷の御座敷の御座敷
遊む御座敷の御座敷の御座敷の御座敷の御座敷の御座敷の御座敷の御座敷
御座敷の御座敷の御座敷の御座敷の御座敷の御座敷の御座敷の御座敷
御座敷の御座敷の御座敷の御座敷の御座敷の御座敷の御座敷の御座敷
御座敷の御座敷の御座敷の御座敷の御座敷の御座敷の御座敷の御座敷

和七月

川崎平座敷中

